

ポリクリを終えて

ポリクリを終えて

歯学科5年 清野 貴仁

時が経つのは早いもので、私達52期生は既にポリクリを終え、最終課程となる総診での臨床実習が始まり、数ヶ月が経ちました。5年間共に学んできた友人達との学生生活も、あっという間に終わりが訪れそうに感じる今日この頃です。

今年は新型コロナウイルスの影響で例年よりも2ヶ月程対面実習が始まるのが遅れ、ポリクリも大学病院の外来での見学を行わないといった規模を縮小したものでした。そのような状況の中でも先生方のご尽力により感染対策をしっかりと行った上で相互実習を行うことができ、学生にとって大変有意義なものになったと思います。

思い返すと、ポリクリでは主体的に学ぶ機会が多かったと思います。今まではファントムを相手に行っていた処置を相互実習では人間相手に行うわけですから責任と緊張感が生まれて実習前には自分の知識不足を補うために予習をし、終わった後は復習を必ず行いました。

学年が上がる度に少しずつ臨床系の講義や実習内容が増えて、5年生になった時点では全ての教科を一通り学んだはずですが、それらはあまり身につけていなかった気がします。決して4年間を適当に過ごしてきたわけではありませんが、90分

間の講義を受動的に学んできた結果だと後悔もしました。

ポリクリの反省点を1つ挙げるとすると、「目の前の作業だけに気をとられて、周りが見えていない」ということです。ファントムを使った練習とは違い、本物の人間に対する診療では、口腔内の処置を行う部位だけでなく、全身への気配りが重要であり、今の私の場合は、1つ1つの作業に手一杯になっているように思います。今のレベルでは、全てのことを自分ひとりで行うことは難しく、インストラクターの指導や手助けが必要な場合が多々あり、患者さんに長期間、何度も通院してもらわねばならないことも充分考えられます。しかし、途中で諦めることなく、臨床実習を通して、より多くのことを学びたいと考えています。



技工室での1枚

ポリクリを終えて

歯学科5年 遠山 有 純

今年のポリクリはコロナウイルスの影響があり6月中旬からスタートしました。それまでは自宅でのZoom講義がメインであり家にいる時間が長かったため正直に言うとポリクリが始まる直前は体力がもつのか不安がありました。しかし、始まってみればそのような不安を意識する時間もなくなっという間に終わったなという印象です。

終わって見た今思うことはポリクリ中にもう少し色々試せばよかったなということです。ポリクリ中はいかに相手に痛みを感じさせないかということ意識しすぎていたため相互実習で相手の口腔内に触れるときはそっと触れ、本来頬粘膜を圧排するためのミラーもただ口腔内にあるだけという状況がよくありました。しかし臨床実習で患者さんを実際に治療して思うことはどうしたら痛いかを知っていることの重要性です。ここに触れたら痛い、こんな風にミラーをあてると痛い、そういうことをポリクリ中にお互いに試せばよかったなと思います。これを読んでいる後輩がもしもいたらお互いに危険のない範囲で色々試してみることをお勧めします。

今行っている臨床実習についても少し触れます。臨床実習が始まり模型ならこのポジションで見えたのに…、頬粘膜ももっと引っ張れるのに…

とそれまでの模型実習との違いに戸惑い、模型で出来たことが患者さんには全然できないということがよくあります。出来ないことが多くあり、それに目を向けすぎると「もう駄目だ」「やっぱり無理だ」となってしまふことが私は多いです。しかし無理だと思っても患者さんは次の週にはやってきて投げ出すことももちろん出来ません。それならば復習と反省をしつつも出来るようになったことにも目を向け、少しずつでも出来ることを増やしていきたいと思います。そして、不慣れな診療に時間を割いてくださる患者さん・ライターの方先生、臨床実習の環境を整えて下さっている全ての人に感謝の気持ちを忘れず臨床実習残り10か月頑張っていきたいです。



臨床実習頑張っています